

銅造物を身近に置く



蒐集した一部の銅造仏

一般社団法人 日本銅センター 会長
日本鋳業協会 会長
古河機械金属株式会社 代表取締役社長

宮川 尚久



院へ普及していった。

仏像は、その素材の違いにより、銅造、塑像、乾漆造、石造、木造に分類される。仏教が伝来した6〜8世紀頃は銅造の仏像が流行したが、その後の時代を通じて、例えば国宝に指定されている仏像134件のうち銅造は、東大寺の盧舎那仏座像（奈良の大仏）、薬師寺の薬師三尊像など11件だけで、殆どが木造である。但し、国宝とか重要文化財とは無縁の個人向けに作られた仏像、つまり今我々が古美術店や蚤の市などで入手可能な仏像は、木造のほか、銅を鑄造した本体に鍍金で仕上げた金銅仏など銅造も多い。

私は郷土人形蒐集が中心とは言っても、たまに気に入った仏像を見かけると入手してきたが、木造の円空仏と見紛う1点以外は、全て古作の銅造である。仏像以外の銅造物では、現代作家ではあるが日本藝術院会員で日本彫刻界を代表する山本眞輔先生らのブロンズ像なども、幾つか身近に置いて眺めている。これまで銅に関わる仕事に直接携わったことはないが、どこかで銅山から始まる会社に勤めている影響を受けているのだと思う。仏像マニアというよりは、銅マニアなのかもしれない。仏像や動物等の置物で古作の銅造物の手頃な大きさのものは、市中にまだ数多く残っている。文化財クラスの二級品を追い求めることはできないが、銅に関わる会社で仕事をしている身として、これからは数は少なくてもよいので、古作の佳い銅造物に巡り合い掌中に置きたいと願っている。

2
カパーロマン
銅造物を身近に置く

3
With Corona 時代に
CUSTARマークを追って
銅の超抗菌性で輝く2つの星

6
カパーワールド
自動車の電動化により需要が急増
駆動モーター用平角銅巻線

8
ユーザー訪問
社名への誇りとともに燃え上がるものづくりの情熱
銅の熱伝導性を引き出し「つぎの快適をつくる」

10
Landmark Character
銅像は街の顔
キャプテン翼ワールド
銅センターニュース & トピックス

11